



発行所
公益社団法人 国民文化研究会
(九州←→東京←→全国)
東京都渋谷区東1-13-1-402
振替 00170-1-60507
電話 03-5468-6230
FAX 03-5468-1470
http://www.kokubunken.or.jp/
E-mail: info@kokubunken.or.jp
月刊「国民同胞」編集部
毎月一回10日発行
購読料 年間2000円

「お父さん、日本はどうやって出来たの？」

— 明治神宮の参道で、六歳の息子が突然訊ねた —

武田有朋

去る十一月四日に、満六歳になる息子と明治神宮（東京・渋谷区）に参拝した。鉄道好きの息子が、地下鉄で遠出してみたいと言ふので、丁度良い機会と思って連れて行った。明治節の十一月三日にお参りしようと思つたのだが、都合が付かず一日遅れの参拝となった。常磐線「柏」駅から電車に乗って、直通運転の地下鉄・千代田線で「明治神宮前（原宿）」駅までの五十分余りの息子との遠出！であった。

当日はあいにく曇天ではあったが、参拝の人並みは途切れることなく、山手線・原宿駅寄りの表参道の大鳥居をくぐって、本殿まで二人で歩いた。道すがら、息子は参道の長ささと参拝客の多さ、周りの木々の大きさに驚いてゐた。また道端に沢山落ちてゐるドングリを拾って喜んでゐた。そんな感じで歩いてゐると、息子

が不意に「お父さん、日本はどうやって出来たの？」と聞いてきた。それまで、ドングリがたくさん落ちてゐるね、とか、（参道を指して）広い道だね、人がたくさん歩いてゐるね、とか、ごくごくありきたりのことを話してゐたので、急な問いに少々面喰らつた。

ことしは明治維新百五十年の節目であるし、まだ息子と参拝したことがなかったので良い機会だ、といふ気持ちがあつて明治神宮へと誘つたのだが、本人にはそのことを伝えてゐなかつた。ただ、地下鉄の沿線にとてもいい場所があるよと言つただけであつた。息子からすれば何の気なしの質問だったのだらうが、場所と時機が余りにでき過ぎなやうに感じられて、私は驚いた。

の話をかみ砕いて聞かせながら社殿へと歩を進めた。日本で初めにできたのは、「おのころ島」といふ島で、その島は、神様が天から大きな矛を海に差し入れて、こをろこをろとかき混ぜて、引き上げた棒から滴つた塩が固まつてできたといふこと。その次にできたのは淡路島らしいといふこと。聞いた息子は、「面白いね！」と嬉しそうに声を上げた。

その言葉にハツとした。幼子にとつても、面白い話なのだ。そして、我が国の歴史について、息子から楽しいといふ反応があつて、そんな話が出来て良かった嬉しかった。そのやうなことに思ひを巡らす私にはお構ひなしに、息子は次のやうな感想を言つた。「淡路島ができたのなら、小豆島もその頃にできたのかな？」。小豆島は妻の母の出身地で、家族でよく訪れる場所である。さうやって、息子が次々に想像を膨らませていくのが面白かつた。

さらに本殿まで、古事記の話をしながら歩いた。妻の出身地の香川（讃岐）も、私の出身地の福岡（筑紫）も、私の祖母の住む宗像も古事記に出てくること。さらに、以前住んでゐた樟葉（大阪府枚方市）も同様であること。樟葉といふ名前の由来は、大毘古命（孝元天皇皇子）に攻められた軍勢が、尿で袴を汚したことから

「尿袴」が転じて樟葉（古事記では久須婆と表記）となつたこと。息子はニコニコしながら聞いてゐた。そんなことを話し聞かせながら歩いてゐると、丁度手水舎に着いた。手を清め、本殿前に進むと、結婚式を挙げたばかりの花婿花嫁の晴れ姿やそのご家族、七五三参りの親子連れなど、華やいだ雰囲気の方々がたくさんをられた。曇り空ではあつたが、息子との会話や参拝される方々の様子から、私自身とても嬉しい気持ちになつた。

話題は変わるが、先日仕事で外出した折に、たまたま日枝神社（千代田区）の前を通りかかつた。これまで参拝したことがなかつたので、折角の機会だと思つてお参りをした。すると手水舎の前に、「十一月のこ」として、明治天皇の「教育」と題する御製が掲げられてゐた。

國のため力つくさむわらはばを教ふる道にこころたゆむな
先般の明治神宮での出来事があつたので、運命的なものを感じた。国文研の勉強会などで、同年代や後輩の方々と触れ合ふ機会が多くなつたこの頃である。まづは我が子に、そしてお会いする方々に、我が国の歴史を語るやうに、弛まず学んでゆかうと改めて思つた次第である。
（日本電信電話株）